

# 立ち行かなくなったら レガシー開発の救済



“リファクタリング”と“プロセス改善”と“エンジニア育成”の総合的な救済

## ■レガシー救済サービスとは？

レガシー救済サービスとは、レガシーコードの品質が悪く開発効率が低いにも関わらず、改善の糸口がつかめない組織を救済するためのサービスです。

当社の救済部隊が、立ち行かなくなつたレガシー開発の組織に入り込み、右図のような活動を継続することで、ソフトウェア開発力のある組織になることを目指します。

救済の3点セット

リファクタリングによるコード再生

プロセス強化と自動化

エンジニアのスキルアップ

継続的改善

ソフト開発力のある組織へ

## ■救済の3点セットの中身とは

救済の中で実施する内容は以下となります。

### リファクタリングによるコード再生

- ソフトウェアの振る舞いを変えずにソフトを綺麗にする
- コードメトリクスにより品質を定量化し、品質向上を確認
  - ・サイクロマティック複雑度
  - ・外部変数、外部変数アクセス数
  - ・依存関係の複雑さ（循環依存の数）など

### プロセス強化と自動化

- 自動化で工数の削減と正確な実施
  - ・ユニットテストフレームワークの導入と実施
  - ・回帰テストの実施
- ルール作りと導入
  - ・プロセス定義
  - ・各種ルール策定
  - ・静的解析ツール設定の見直し
  - ・コンパイルオプションの見直しなど

### エンジニアのスキルアップ

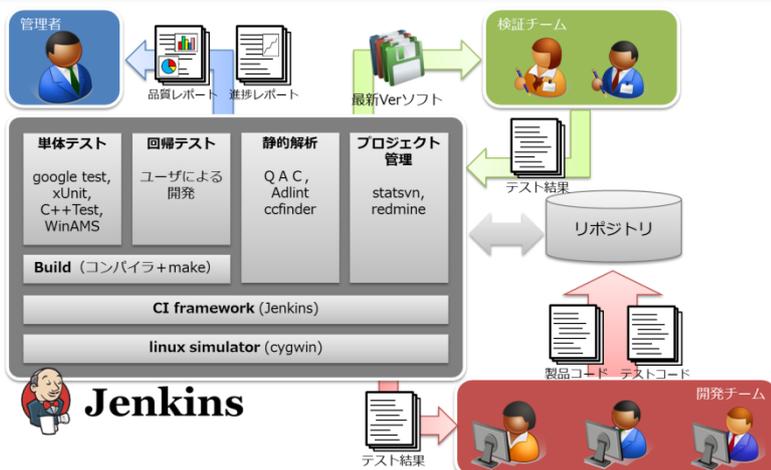
- コーディング技術のトレーニング
  - ・弱点をピンポイント指導
  - ・習熟度に合わせて段階的に実施
- ルールの活用
  - ・プロセス運用
  - ・ユニットテストフレームワークの説明
  - ・自動化システム運用

## ■自動化を支えるCIシステム

救済では、ビルド以降の一連の作業を自動化し、その結果を関係者で即座に共有できるようなシステムを導入します。これは、一般的には「継続的インテグレーション（CI：Continuous Integration）」と呼ばれます。継続的インテグレーションを実現するシステムを導入することで、自動化・システム化し、ムダを排除して、更に品質安定化のベースを作り上げます。

ビルドの結果、得られる情報はシステムを通じて、プロジェクト関係者全員が即座に共有することができます。

CIのフレームワークであるJenkinsに、単体テスト・回帰テスト・静的解析・カバレッジツールを組み込み、ビルドからの一連の作業を実行させます。



## ■お問い合わせ

# レガシー救済 導入プラン



期間や予算によりいろいろな導入方法をご提案できます

## おまかせプラン

### 支援方法

- 支援部隊人数
  - 隊長1名、隊員4～5名
- 支援方法
  - 支援部隊が常駐して支援を実施
  - お客様の活動は極力少なくし、実活動は救済部隊の隊員が実施

### 特徴

- 既存メンバのレベルに依らず救済を実行できる
  - 救済を実行するのは救済部隊
  - 救済開始のための初期教育は不要
- 救済のスピードが速い
  - “救済のプロ”である隊員が実行するため、無駄がない

### おすすめしたいお客さま

- 一刻も早く品質改善が必要
- 新機能開発に忙しく、品質改善まで手が回らない

## エコノミープラン

### 支援方法

- 支援部隊人数
  - 隊長1名のみ
- 支援方法
  - 週に1～2日訪問し支援を実施
  - お客様側で実行部隊を組み、指導しながら救済を展開

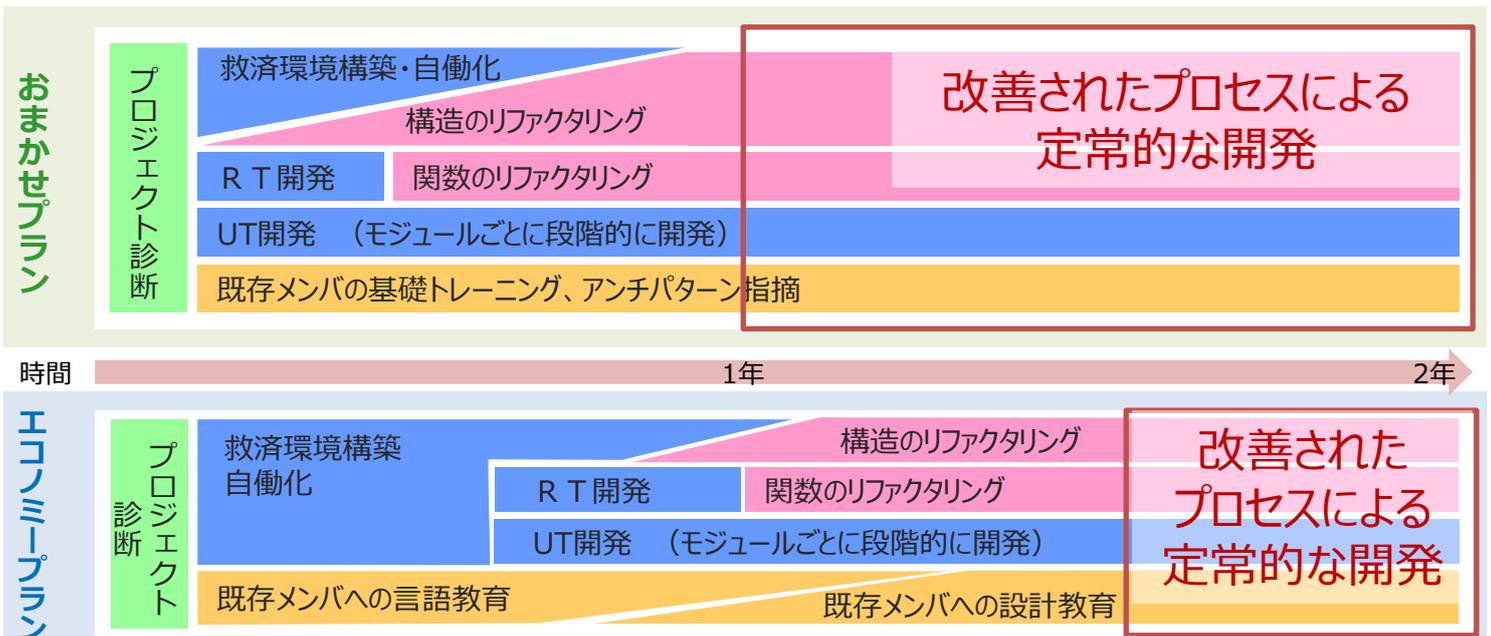
### 特徴

- 比較的安価での実施が可能
  - 隊長1名の訪問費用のみ
- ノウハウやスキルが既存メンバに残る
  - 実行部隊は既存メンバ
  - 実際に自ら手を動かすことが、最もスキルアップの効果が高い

### おすすめしたいお客さま

- あまり予算をかけられない
- 品質改善と人材育成を両立したい

## 救済の進め方



## ■お問い合わせ